

2022 年 10 月 31 日

各 位

会社名 株式会社新生銀行
代表者名 代表取締役社長 川島 克哉
(コード番号 : 8303 東証スタンダード市場)

株式会社サンケイビルに対するサステナビリティ・リンク・ローンの実行について

当行は、株式会社サンケイビル(本社:東京都千代田区大手町、代表取締役社長:飯島 一暢、以下「サンケイビル」)に対し、2022 年 10 月 31 日にサステナビリティ・リンク・ローン(以下「SLL」)を実行いたしました。

SLL とは、借り手のサステナビリティ経営方針や、ビジネス戦略と整合したサステナビリティ・パフォーマンス目標(以下、「SPTs」)を設定し、その達成状況と金利等の貸付条件を連動させることで SPTs 達成への動機付けを行う融資商品です。

サンケイビルでは、脱炭素目標「CARBON HALF」の実現に向けた取り組みの一つとして、「2030 年までに 2013 年度対比、温室効果ガス(CO2)総排出量 Scope1・2 を 50%削減」という中長期目標を定めています。目標を達成できなかった場合には、脱炭素社会の実現に資する活動を実施している公益社団法人・公益財団法人・国際機関・自治体認定 NPO 法人・地方自治体やそれに準じた組織に寄付を実施する仕組みとなっています。

サンケイビルは、包括型 SLL フレームワーク(以下「フレームワーク」)を組成し、当該フレームワークの SLL 原則^{※1}への適合、及び設定した SPT の合理性について、株式会社格付投資情報センターより第三者意見を取得しています。また当行においても、当該フレームワークに定められる「KPI」、「SPTs」、「SPTs の達成状況と貸出条件等の連動」、「レポートニング」、「期中における SPTs の検証」の 5 つの要素につき確認を行い、本ローンが当該フレームワークに従って計画・実施されることを、貸付人としての当行と、社内での独立性を確保した評価室のそれぞれの立場から確認しております。

新生銀行グループは、中期経営計画「新生銀行グループの中期ビジョン」の実現に向けて「環境・社会課題解決へ向けた金融機能提供」を掲げております。持続可能性や ESG/SDGs の観点に、環境・社会・経済など社会全般に対して正のインパクトをもたらすことを目的とする社会的インパクトの概念を融合させた「サステナブルインパクト」のコンセプトのもと、社会課題に対して正のインパクトをもたらす企業や事業に対し、お客さまとの継続的な対話を通じた投融資を推進しております。

【案件の概要】

借入人	株式会社サンケイビル
資金使途	事業資金
融資金額	40 億円
KPIs の概要	温室効果ガス(CO2)総排出量 Scope1・2
SPTs の概要	2027 年度の Scope1・2 の温室効果ガス(CO2)総排出量を 2013 年度対比 70%とする

※1 Loan Market Association (LMA)、Asia Pacific Loan Market Association (APLMA)、Loan Syndications & Trading Association (LSTA)が策定した「サステナビリティ・リンク・ローン原則」

以 上

お問い合わせ先
新生銀行 グループIR・広報部
報道機関のみなさま: Shinsei_PR@shinseibank.com
株主・投資家のみなさま: Shinsei_IR@shinseibank.com